

英語教師の ニードとその資料源

1977年 2月 22日

東京都中学校英語教育研究会
研究部

はじめに

昨年度、研究部では、「英語教育の実態調査」を実施して、本都中学校の英語教育の実態を明かにすることに努めました。本年度は、「英語教育に関する知りたい情報」を集めたところ約 450 通の多きに達しました。そこで、これらの二ードを一定の項目に分類し、その二ードに応ずる資料を英語教育界の諸先達に提供していただき、本冊子がまとまった次第であります。

研究部各位ならびに関係者の皆様に深く感謝申し上げたいと思います。

情報過剰化の時代、英語教育に関する各種の出版物等はぼう大な数に及んでいます。しかし、英語指導上の問題で、いざ参考文献が必要だという時に、どんな資料があるか、かえって途方にくれる場合が多いことは、われわれがしばしば経験するところであります。このような時に、本資料が問題解決のために少しでも役に立つならば、本資料を編集した部員の苦労も報いられるといえましょう。

東京都中学校英語教育研究会

会長 平沢尚夫

知りたい情報集とその資料について

昭和 51 年 11 月にお願いしましたアンケートに、447 名の先生方からご返答をいただきましたことを感謝いたします。研究部では、お寄せいただいたアンケートの解答に基づいて分類表を作成し、これに従って「知りたい情報」の項を分類しました。分類された「知りたい情報集」について、研究部員が資料を深すと同時に、現在英語教育界で活躍しておられる学者・指導主事・全英連の研究部の先生方に、資料源についてご協力をお願いしました。あつかましいお願いにもかかわらず、下記の先生方にご協力いただきましたことを心から感謝いたします。

(敬称略・アイウエオ順)

- 浅野 博(筑波大)・池永勝雅(筑波大)・井田米造(鷺宮高校)・伊藤惇一(指導主事)
- ・伊村元道(玉川大)・大高常昭(指導主事)・大友賢二(神奈川大)・上山 豊(指導主事)
- ・隈部直光(大妻女子大)・塩沢利雄(東京家政大)・島岡 丘(筑波大)・鈴木 博(東京大)
- ・内藤尤二(青山高校)・中村 敬(成城大)・西川 勲(指導主事)・長谷部作蔵(指導主事)
- ・羽島博愛(東京学芸大)・福田大昭(指導主事)・堀口俊一・(東京学芸大)・淀縄光洋(指導主事)
- ・若林俊輔(東京学芸大)

アンケートをお寄せいただいた先生方に、「知りたい情報の資料」をなるべく早くお知らせしたいと考えましたが、情報についての資料を探す日数があまりにも少なかったことが残念であります。次年度、次々年度により充実させて行きたいと考えております。

一般図書以外の資料としては、英語教育(大修館)、現代英語教育(研究社)、英語展望(ELEC)などにとどめました。

新しくつけ加える資料、及び、資料の訂正等がありましたら、次の所にお手紙でお教えいた

だきたいと考えております。

〒115 東京都北区 1-7-12 北区立赤羽台中学校 森永 誠宛

お教えいただいた資料につきましては、昭和53年2月頃までに整理して、お渡ししたいと考えております。この趣旨に沿って、さらにご協力下さいますようお願い申し上げます。

中英研・研究都長 森永 誠 赤羽台中.

副部長 石津谷 進 一橋中

同 萩野 浩 麹町中

同 山口 政治 目黒四中

INDEX

0 言語	4	(8) 入門期の指導	10
1. 言語	4	(9) 文型・文法	11
1 言語と文化	4	(10) その他	11
1. 文化的背景	4	2) 授業と学習者	11
2. 言語習慣	5	(1) 学力の劣る生徒	11
2 学習者	5	(2) 学力中位の生徒	12
1. 能力	5	(3) 学力上位の生徒	12
2. 動機づけ・興味・関心	6	(4) 学力差・能力差	12
3 教授法・授業	6	3) 授業と学習形態	12
1. 教授法	6	(1) グループ学習	12
1) 教授法の動向	7	(2) 個別学習	13
2) 習慣形成論・構造言語学	8	4) 学習と時間	13
3) 認知学習・変形文法	8	(1) 授業と時間・時数	13
4) Oral method.	8	(2) 長期の休みと学力の関係	13
5) Oral approach	8	3. 学習者の挫折の問題	14
2. 授業	8	1) 学習の困難点	14
1) 授業(一般)	8	2) いつ挫折するか	14
(1) HSRW(4技能)	8	3) なぜわからなくなるか	14
(2) Hearing	8	4. 学校の授業以外の学習の場	15
(3) Hearing・Speaking	9	1) クラブ	15
(4) Speaking	9	2) 家庭学習	15
(5) Reading	9	3) 塾	15
(6) Writing	9	4 教材	16
(7) 言語活動	10	1. 文字教材	16

1) 教科書	16	3. 評定	21
2) 教科書以外	16	4. 入試	21
3) 自主教材	17	7 研修	21
4) その他	17	1. Pre-service training	21
2. 音声教材	18	2. In-service training	21
3. 視覚教材	18	8 教育環境	22
5 教育機器	18	1. 教材・情報センター	22
1. 音声機器	18	2. 教育課程・授業時数・クラスサイ	22
1) 音声機器	18	9 その他	22
2) 音声機器を使った授業・その他	19	1. どういう英語を教えるか	22
2. 視覚機	19	2. 目標	23
1) 視覚機器	19	3. 小・中・高の関連	23
2) 視覚機器を使った授業・その他	19	4. 外国に拾ける言語教育	23
3. その他	19	5. 研究計画・名簿・その	24
6 評価	20	6. 新学習指導要	24
1. テス	20	7. 国語との関	24
2. 評価	20	8. その他	24

この資料集の記号季照

1. 略号

大=大修館・英語教育

現=研究社・現代英語教育

展=ELEC・英語展望

76. 5=1976年5月号

増刊=増刊号

2. 注について

(注) 図書,内容についての紹介,説明など

[注] 項目についての参考意見など

3. 資料の並べ方

主に,本・雑誌・参考意見の順に並べました。

4. 「知りたい情報」の項の後の()内は二ードの合計数

知りたい情報	資料と注
<p>0.言語'</p> <p>0-1. 言語</p> <p>・実際に英米で使われている英語と,学校で習得される英語では,文法・文型・語句などにおいてややずれがある。断片的な知識としてではなく,体系的なものが欲しい。また,どの程度教えるべきか。(7)</p>	<p>・ "A Grammar of Contemporary English" : R. Quirketal.(Longman, '72)</p> <p>・ "Oral Drills in Sentence Patterns": H.Monfries(Macmillan, 1966)</p> <p>(注)ごく実際のな書物であるが,Protesting answers to unjust commands / Indirect commands のような練習があって.この方面に苦手な日本の学習者には極めて参考になる。</p> <p>・「発想別英語会話教授法」第2部(日本放送出版協会,1973)</p> <p>(注)問題が広範囲にわたるので,多くの参考文献が必要になるが.この本は自分で調べる場合の参考にもなる。</p>
<p>1. 言語と文化</p> <p>1-1 文化的背景</p> <p>・英語を通しての文化的背景を理解させる指法について。</p> <p>・英語使用国の風俗・習慣について。</p> <p>・英語使用国の歴史・地理について。</p> <p>・中学生向けのアメリカ,イギリスの風物史</p> <p>・文化史について。</p> <p>・誤って伝えられている英語国に関する情報について。</p>	<p>・「読み方の指導」第2部第4章:佐藤喬編(開隆堂,1976)</p> <p>・「中学英語指導法事典<題材編>」稲村松雄編(開隆堂。1976)</p> <p>・「図詳ガッケンエリア教科事典・第16巻英語」(学研,1976)</p> <p>・「近代英国の起源」:越智武臣(ミネルバ書房,1966)</p> <p>・「英語世界の俗信・迷信」:東浦義雄他(大修館,1974)</p> <p>・"Common English Sayings": A Johnson(Longmans, 1958)</p> <p>・「日英のことばと文化」:宮内秀雄教授還暦記念論文集(三省堂,1972)</p> <p>・「日本人の表現構造」:D.C.バーンランド(サイマル出版,1973)</p>

<p>1 - 2. 言語習慣</p> <p>言語習慣・行動など、日本とのちがいを示すような図鑑・本などについて。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「特集・英語習得と文化」(大,1976.5) ・「身ぶり言語の日英比較」:小林祐子(EL EC, 1975) ・「日本人と英米文」:カーカップ・中野道雄(大, 1973)
<p>2. 学習者</p> <p>2 - 1 能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語としての英語学習にはどの程度の知能が必要か。(4) ・落ちこぼれの生徒と知能指数との関係について。 ・知能偏差値 45 程度(IQ 約 90)の生徒はどのような文型を何回の反復練習で習得できるか。 ・知能の劣った生徒にどれだけの学力をつけてやれるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ "The Psychologist and the Foreign-Language Teacher" : Wilga M. River (The University of Chicago Press, 1964) ・「英語学習の心理」講座英語教授法第 10 巻 (研究社, 1970) ・『特集・生徒の特性と英語指導「英語学力振の原因」』(大,1974. 1) ・『特集・クラス内格差と英語指導「学力の低い生徒への対応」』(大,1976.1) ・「言語学習能力とは何か」:佐藤方哉(大, 1972,6) ・「知能検査の学習指導への利用」:羽鳥博愛 (大,1972, 6 増刊) ・ "The Psychology of Learning and Motivation", Vol.1 (Academic Press, New York .London) ・ "The Context of Foreign Language Teaching" : Leon A.Jakobovits and Barbara Gordon (Newbury House, 1974) (のPart) Harverd Educational Review 1974 February, Special Issue Part : Student Classification, Public Policy and the Courts (注)英語のみでなく巾広い。 ・「特集・できる生徒・できない生徒」,「英語不振児の問題」「不振児をささえる指導」

<p>2 - 2 動機づけ・興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期学習者に対する有効な動機づけの方法について。(2) ・ 興味づけや,それを継続させるための方法について。(3) ・ 英語学習の内的動機づけの方法について。(2) ・ 子供は外国語について何を知りたがり,何に興味をもっているのか。 ・ 生徒が興味を持って自発的に学習するようにしむけるには,どのように指導したらよいか。(2) ・ 生徒の英語学習への興味・関心度の一般的な変化の傾向について。 ・ 1,2,3年と進級するにつれて生徒の授業への取組みが消極的になって行くのはどういうわけか。これにはどのように対処したらよいか。(2) ・ 上記に関して,授業の進め方,指導のし方に工夫をして,成功した実例。 ・ 興味をなくし,やる気を失った生徒にやる気を起こさせた実例。 	<p>その他 (大, 1972. 6 増刊)</p> <p>[注] 知能指数 85 から 90 ぐらいまでの子供は,普通児と歩調をあわせてゆくのにかり骨が折れる。学業不振をきたしやすいのは IQ75 ~ 90 ぐらいの中間児に多くみられる。IQ90 程度以下の生徒は単に英語科だけの問題ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ "Attitude and Motivation in Second-Language Learning": R'C.Gradner and W.E.Lambert, (Newbury House Publishers) ・ 「特集・学習意欲を高める英語の指導」(大,1975.3) ・ "Motivation to Learn And Language Proficiency": YasmeenM. Lukmani (Language Learning Vol.22 No2) ・ 「英語科教育の研究」p-341 ~ 3 (大, 1975) ・ 「英語学習の心理」講座・英語教授法 10 (研究社, '70) ・ 「英語科教育の研究<動機づけ>」:三浦省五 (大修館, '75) ・ 「英語科教育の研究<態度・興味>」:藤森知子(大修館, '75)
<p>3. 教授法・授業</p> <p>3 - 1 教授法</p> <p>3 - 1 - 1) 教授法の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の英語教授法の動向はどうなってい 	<p>[注] Audio-Lingual Habit Theory と Cognitive Code-learning Theory の 2 論があり.要は Eclectic Method, あ</p>

るか。

- ・構造言語学以後の最も中学生の英語指導に効果の高い指導法について。
- ・都全体でどんな method がどのくらいの割合で行われているか。

3 - 1 - 2) 習慣形成論・構造言語学

- ・く二,返し練習おることが必要だが,どのくらいの期間をおいて,何回ぐらいくり返すと定着する率が一番高いか。
- ・行動学習と習慣形成の進め方について。

るいは生徒の能力や教材の個々の指導要項について Method,Technique は考えるべきである。ただし言語学的理論を背景とすべきである。指導法の上に片よるべきではない。"

・ "European Syllabuses in English as a Foreign Language":WilliamB.Currie(Language.Learning Vol.25 No.2)

・「学校教育心理学」(P.53 ~ 59)沢田 慶輔編(東大出版会,1972)

・ "The Psychologist and the Foreign Language Teacher":Wilga M. Rivers

・「海外における外国語教育の動向」広島大学教育学部英語教育研究室(現各年度 1月)

・「特集・英語教育法の新しい考え方」(大,1976. 6)

・「特集・日本の英語教育方法史」(大,'76 .7 増刊)

・「特集・いろいろの英語教授法」(大,'73. 11)

・「特集・英語学習の主体化と学び方学習」(大,1972.11)

(注)中学校の英語教育は従来からパタンブラクティスも次第に乗りこえて学習の主体化すなわち学び方学習の方向に向かうだろうと思います。

・「英語教育年鑑.1976 年度版 pp.61 ~ 2. (開拓社)

・ "Problem of Language and Learning":Alan Davies(Heinemann, London)

・ "A Structural Approach Vs a Situational Approach to Foreign-Language Teaching" :

Philip C. Hauptman(Language Learning Vol.21,No 2)

・習慣形成論と認知学習論の学習への生かし方について。

3-1-3) 認知学習・変形文法

・変形文法を利用した指導の結果についての資料について

3-1-4) Oral method

・文字を数えないで;音声だけの教育を三年間, 現行の授業時数で続けて教えたら,どの程度の内容まで話せるようになるか。

3-1-5) Oral approach.

・oral approach を積極的に実践している学校があったら,その報告を聞きたい。

3-2. 授業

3-2-1) 授業(一般)

3-2-1)-(1) HSRW(4技能)

・「話す・聞く」を中心に指導した場合と「読む・書く」を中心に指導した場合とでは10年後・20年後の英語力および英語への興味は,どちらの方が高くなるか。

・授業において,4技能はそれぞれどんな比率が望ましいか。

・4技能のうち,生徒にとって習得の最も困難なのはどれか。

・口頭練習と読み書き練習にかける割合は一般的にはどれくらいになっているか。また望ましい割合はどうか。

3-2-1)-(2) Hearing

・Hearing を他の skill に優先して与えると効果があるか。

3-2-1)-(3) Hearing と Speaking

・Hearing および Speaking の練習を実際に生徒にどうさ仕でいるか。(2)

・会話の力をつけるにはどうしたらよいか。

・岩手大附属中

・静岡大付菰沖

〔注〕中学校 2 年の前期言語材料の内容まで。

〔注〕()ral method については,くオーラル・メソッド パーマーの教授法 「英語教育事典」(開拓社,62・)を参照。

〔注〕「読む・書く」の領域に興味があるし,知的水準の向上のためにも効率が高い。ただし,音声指導を軽視することは望ましくない。

〔注〕「書く」技能の習得が最も困難。

・ "Second-language learning and teaching": D.A.Wilkins(London:Edward Arnold,1974)

・ "Language and Language learning" : pp.122 ~ 131:Brooks,Nelson(Harcourt, Brace and Co.1960)

・「口頭練習を遅らせる教授法が口頭練習に与える影響」田中春美(大, 1976.9)

・ 同 上

・ "An Introduction to Pronunciation of English": A.C. Gimson

3 - 2 - .1) - (4) Spe8king

・ センテンス・ ストレス券よびフレーズ・
ストレスなどの体系化した資料が欲しい。

3 - 2 - 1) - (5) Reading

・ 一年生の多くは入学時に英語辞書を購入しているが、辞書の引き方を教える時期はいつが適当か。

・ 二・三年生における辞書活用の方法と限度について。

・ 生徒にとって、どんな語が読みにくいのか。

・ 英文を読む場合、中学生としては直訳と意訳とではどちらが好ましいか。

3 - 2 - 1) (6) Witing

・ H・R・Sの能力に比べて、極端にWが弱

・ "The Pronunciation of American English":

Arthur J. Bronstein

・ 「外国語の学び方」 (pp.123 ~ 155):

渡辺照宏 (岩波新書 462, 1962)

・ "Prosodic Syttems and Intonation in English":

David Crystal

・ "Drills and Exercises in English Pronunciation--Consonants and Vowels, .Stress and Intonation Part 12": English Language Services

・ "Tbe Intonation of American-English": Kenneth L. Pike (The University of Michigan Press)

・ "Living English Speech": W. Stannard Allen (Longman, 1954)

・ "Aspects of English Sentence Stress":

Susan F. Schmerling (University of Texas Press, 1976)

・ 「来会話リダクシシヨンの演習」 : 大井上 滋 (株式会社語研 1973)

・ 「特集・効果的な授業のために「四技能」のバランスということ他」 (大, 1973)

・ 「特集・辞書の効果的な利用」 (現, '74 . 4)

[注] 陳腐な日本語はさけるべきである。

表現上の日英語の比較を漸次指導していかなければ平易な語で自然な日本語の文意の表現ができず、bookishなもの、あるいは文法的に正しくともおかしい表現をするようになる。

・ 「中学校における書く力を伸ばす指導」 (大, 1971)

い生徒の指導はどのようにしたらよいか。

- ・ブロック体だけ教えればよいと思うが、それではだめなのか
- ・カーシブ体だけ教えればよいと思うが、それではだめなのか。
- ・ブロック体とカーシブ体を習い始める時期は、いつが適当か。
- ・ブロック体とカーシブ体の兼ね合いはどのようにすればよいか。
- ・欧米ではブロック体とカーシブ体のどちらを教えているか。

3 - 2 - 1)(7) 言語活動

- ・言語活動について具体的にどんな展開の事例があるか。(2)
- ・教材にあわせたいろいろなタイプの言語活動を知りたい。また、各タイプごとにそれぞれどんな面での学習効果が高いか。説明をつけてほしい。
- ・二学年の「読むこと」と一・三学年の「聞くこと・話すこと」の言語活動を実際に現場でどう展開しているか。
- ・言語活動を時間内でどのようにやっているか、実態を知りたい。
- ・言語活動が必要な理由。(2)
- ・言語活動を行う際の障害や問題点は何か
- ・言語活動の成果はいかなるものであるか
- ・言語活動の詳しい年間計画の例。
- ・英語運用能力をつけるてだてについて。

3 - 2 - 1)一(8) 入門期の指導

- ・入門期の効果的な指導技術にはどのようなものがあるか。(3)
- ・音声とつづりの結びつきを入門期にどのよ

[注] 両方のスタイルを指導する必要あり、特に前期初等教育においては。

[注] カーシブ体は2学期には遅くとも教える必要あり。

[注] 両方の指導をしている。特に小学校では米国では2年生あたりからカーシブ体を教えている。

・「言語活動の理論と実践」:堀口俊一(桐原書店)

・"Teaching Communication": Adrian Palmer (Language Learning xx-1-55)

・「英語指導法ハンドブック」伊藤健三ほか(大修館,1976)

・「特集・英語科の授業研究」の(聞くこと・話すことの授業研究,読むことの授業研究,書くことの授業研究)(大・1977・2)

[注] 言語を機械的運用にとどめず、その構造、文法の正しい使い方の場を知り、運用

できるようにする。(そのために言語活動が必要になる。)

・

・「入門期の英語指導」:江川泰一郎(明治図書,1969)

・「これからの英語教育」:池永勝雅(開拓社英語教育叢書)

うに教えるか。

- ・落ちこぼれを減らす為の入門期の指導はどのように進めるべきなのか。

3 - 2 - 1) - (9) 文型・文法

- ・文法事項の扱いは毎時間どの程度の扱いが適切か。(2)
- ・関係代名詞の指導事例について。
- ・コンタクトクローズの指導事例について
- ・外国での現在完了形の教え方をしりたい。

3 - 2 - 1) - (10) その他

- ・Situation の作り方について。
- ・暗誦指導の方法とその学年別の扱い方について。
- ・(中学で) 発音記号をどう扱うか。

3 - 2 - 2) 授業と学習者

3 - 2 - 2) - (1) 学力の劣る生徒

- ・遅進児にどうやったら学力をつけることができるか。効果的指導法を知りたい。(20)
- ・知能の特に低い生徒の効果的指導法。
- ・学力偏差値 40 以下の生徒の効果的指導法と事例。
- ・下位の生徒を、せめて中位に伸ばす効果的な指導法はどうあるべきか。
- ・授業についていけない遅進児には、どの程度のどのような学習が必要か。
- ・おとこぼれる生徒への教科書の内容はどの程度にすべきか。
- ・漢字の読み書きがゼロに近い一年生の英語指導法を知りたい。(2)
- ・能力の低い生徒に英語を教える必要性について。
- ・遅進児達にどのように授業参加の満足感を与えることができるか。どのような人間

[注]文法事項は1時間1つが望ましい。

[注]発音記号は音と綴り字との関係で扱う。

[注]母国語の習得がほとんどダメな生徒に外国語の習得は困難でしょう。

[注]4技能のうちで適性を見つける。

[注]成就感を与える方法が問題になる。

[注]3 - 3 - 3) - (2)個別学習の項参照

的接触をすることができるか。

- ・おくれた生徒を正規の授業の中でどう向上させ、意欲をもたせるか。

3 - 2 - 2) - (2) 学力中位の生徒

- ・学年が進むにつれて授業についていけない生徒をどのように授業に参加させていったらよいか。
- ・一年で文字を書く段階から学習に興味を失い、授業への参加が消極的になる生徒が出始める。これらの生徒への指導配慮についての情報が欲しい。
- ・一年生後半から少し急ぎ始めると、バラバラ落ちこぼれが出始めるが、このあたりの扱いにどのような配慮が必要か。

3 - 2 - 2) - (3) 学力上位の生徒

- ・学力上位の生徒を更に伸ばすてだてについて。
- ・学力上位の生徒を授業中あきさせない方法について

3 - 2 - 2) - (4) 学力差・能力差

- ・学級内における能力差にどう対処すればよいか。(3)
- ・幅広い学力に対応する指導法と実践例。(3)
- ・普通学級の中で指導困難な生徒を一斉指導の中でどのように扱っていったらよいか。(2)
- ・一斉授業の中での個の生かし方。(2)
- ・ひとりひとりを生かす授業を実践し、効果をあげている学校の紹介、およびその方法について。

3 - 2 - 3) 授業と学習形態

3 - 2 - 3) - (1) グループ学習

- ・一斉学習とグループ学習との効果の比較

[注]言語材料の精選と分析、及び到達度の研究

・「優秀児の指導」：田崎清忠（大、72 . 6増刊）

・"Individualizing Foreign Language Instruction":
H.B Altman, B.L.Politzer

・「特集・クラス内格差と英語指導（大、1976 , 11）」

[注]高等学校の研究例としては、都立日野高校における昭和44～45年度の研究があります。参考になると思います。

について

3 - 2 - 3) - (2) 個別学習

- ・個別学習のすすめ方について。(3)
- ・能力に応じた個人指導の具体的な方法について。
- ・Non-graded School の考え方と実践例があれば知りたい。

3 - 2 - 3) - (3) 能力別学習

- ・英語における能力別指導と、その効果に関する資料。
- ・能力別クラスと普通クラスではどのような差があらわれるか。
- ・学力別クラス編成では、どのような教材を用いているか。
- ・学力別クラス編成のうち、低学力クラスにおける授業の進め方について。

3 - 2 - 4) 学習と時間

3 - 2 - 4) - (1) 授業と時間・時数

- ・1コマの授業の長さは、グレード・教材等に応じて変る方が適当である。
- ・基礎学力をつけるのに必要な総学習時間は少なくともどれくらい必要か。
- ・中学低学年において、英語学習に望ましい単位時間と週時数はどのくらいなのか。

3 - 2 - 4) - (2) 長期の休みと学力の関係

- ・年間授業時数が減った場合、いわゆる落ちこぼれの生徒はどれくらいふえるか。
- ・年間授業時数が減った場合、教材の内容はどのように変わるべきか。
- ・週 3 時間の授業時数になった場合、教材の内容は従来の 4 分の 3 が妥当か。

- ・「特集・個別化への問題点」(現 75.10)
- ・"Individualizing Foreign Language Instruction": H.B.Altman, B.L.Politzer (Newbury House-Publishers)
- ・(大, 1975, Vol.1.23, No.13)
- ・(大, 1968, Vol.17, No.6 (特集)・
- ・"Team Teaching And The Teaching of English": Anthony Adams
- ・「個別化指導の理論と実践」: 堀口俊一 (桐原書店)
- ・「不振児をささえる指導—級別テストの試み」:(大, ' 72.6 増刊)
- ・「英語の能力別指導」:(研究社)

・中1にとって、夏休みは英語学習にどのような影響を与えるか。(6)

・一年生に英語を身につけさせるには、夏休みをどう使ったらよいか。

3 - 3 学習者の挫折の問題

3 - 3 - 1) 学習の困難点

・日本の中学生の落ち入りやすい学習上の困難点(音声面・語い面・文法面)について。

・生徒が理解しにくいと思っている文法事項は何か。

・生徒の理解しにくい文法事項の指導例。

・生徒のつまずきやすい項目と、その指導例。(3)

・be 動詞から入ると、一般動詞(have)から入るとでは、生徒の学習上の困難点の相違はどこにあるか。

3 - 3 - 2) いつ挫折するか。

・生徒はいつごろから英語がわからなくなるか。(15)

・生徒はいつごろから英語がわからなくなる。その対策は何か。(3)

3 - 3 - 3) なぜわからなくなるか

・生徒が英語に興味を失うのは何が原因か。

・生徒はなぜ英語がわからなくなるか。(3)

・英語が嫌いになる主たる原因は何方。(2)

・「特集 I・できる生徒・できない生徒」
(大,'72年増刊6)

[注] 英語の構造体系は S+V+O が基本になっている。日本語の「...です;~します」を be 動詞と誤解する。

[注] 都研,昭和 51 年度研究テーマ。52 年 3 月に発表予定。

・「英語ざらい」(教育と医学 Vol,24No. 7 pp.675 ~ 7 1976 年)

[注] 逆説的な言い方をすれば、わからないからますますわからなくなる。生徒個々の問題である。

・『特集・英語教育の実践目標—まず教師であること・「英語ざらい」を作らぬために・「英語ざらい」を生むもの・「英語好き」への道...』(現, '75.7)

・「英語不振(英語ざらい)の生徒の指導—高校」:後藤喜久称(大,'72.6 増刊)

・「何が英語ざらいを作るか」:松畑?熙一(大,'72.6)

・[注] 教材の内容というより「認知」「運用」

3-4 学校の授業以外の学習の場

3-4-1) クラブ

- ・全国的規模での英語劇指導例の情報。

英語クラブ活動の実態はどうなっているか

- ・一～三年混合の英語クラブでの成功例。

3-4-2) 家庭学習

- ・学習内容を定着させるために、生徒に家庭での復習としてどのようなものを与えることが効果的なのか。(4)

- ・授業で習ったことを身につけるには、どのくらいの家庭学習が必要か。(2)

- ・英語を家庭で学習する時間は、現状ではどのくらいになっているか。

- ・授業の内容を定着させるのに、個人の能力差によって、それぞれどの程度の時間が必要となるか。

- ・夏休みや冬休み中の宿題の妥当な与え方はどうしたらよいか。

- ・生徒はどんな宿題に興味をもってやるか

- ・家庭学習の習慣化をはかるにはどうしたらよいか。

- ・家庭学習と成績の相関関係について。

- ・視聴覚機器は家庭学習でどのような効果をあげているか。またあげることができるか。

- ・ラジオ・テレビ講座の効果と影響について

3-4-3) 塾・家庭教師

- ・塾が学校の英語教育に及ぼす功罪について。(2)

- ・塾の問題をどのように処理しているか(2)

の両面の理解が伴わないから。

[注]用語のみの理解に陥入り、訓練時間の不足と、言語材料の多すぎるのが原因である。言語材料を含めて、画一的内容でなく、個別化指導が必要である。

「英語の授業」講座・新しい英語教育 3

英語教育と家庭学習 :土屋澄男

(大修館,76)

・「英語学習の心理(講座・英語教授法第 10 巻)pp.132 ~ 3」(研究社.1970)

・『特集・「私塾と学校の英語教育」一私塾と学校は対立するか・英語教育とその界隈の問題・英語教育と学習塾の問題・学校は”復活”するか一』

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教師の功罪 	<p>(現,'75.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なんで英語やるの?—ある英語塾の記録」:中津燎子 (午夢館,'73)'
<p>4 . 教材</p> <p>4 - 1 . 文字教材</p> <p>4 - 1 - 1) 教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の教科書に出てくる内容の文化的背景について。 ・現行教科書についての使用感想集。 ・以前の教科書の内容について。 ・英語国以外の国の英語の教科書の構成と特徴について。 ・全国の教科書採用一覧表。 <p>4 - 1 - 2) 教科書以外の教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科審以外の補助教材のリスト。(2) ・読み物教材としてすぐれたもの。(3) ・生活にそくした豊かな教材にはどのようなものがあるか。(2) ・寸劇利用の言語活動の具体例を集めた本 ・綴りと発音を指導できる適当な教材。 ・読みもの教材で,こどもたちが興味をもち内容的にもすぐれているごく短いものは,どんなものがあるか。 ・各文法項目の指導法と,そのために使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学英語教科書・題材の背景」:伊村元道(現,'75年4月~'76年3月連載) [注] 文化的背景には,地理的背景と言語的背景があり,後者のことが余り考えられていない。 ・「中学英語教科書の歩み」:伊村元道(現,'73.11) ・「読み方の指導・第2部第5章世界の英語教科書」:佐藤喬編(開隆堂,'76) ・「多英語国の教科書を読む」:長谷川正(大,'76.10) ・「フランスにおける英語教科書の特徴」(現,'75・8). ・「生徒用読み物教材紹介(中学・高校)」:宮坂一(大,'73.7増刊) [注] 子供には夢をもたせる教材も必要。単に現実のみのことを言うのは心身の発達上どうか。 ・「音声と綴字・英文法シリーズ2」:安井稔(研究社,'55)...教師用参考書「英語の発音」:鳥居・兼子(大,'62)...指導用 ・「英語指導法ハンドブック〈導入編〉」

すぐれた教材。

- ・ 各国で使用している外国語教科書。
- ・ 教科書の進度にあった副読本。
- ・ 高校入試との関係で、授業に使用している副読本(副教材)。
- ・ どういう副読本を公立・私立・国立の中学校で使用しているか。
- ・ 中学生向けのスピーチ用教材。
- ・ 中学生向けの英語劇脚本集。(2)
- ・ いままで中学生が学芸会で上演した脚本集(および、その録音テープ)。
- ・ 学年に応じた英詩。

4 - 1 - 3) 自主教材

- ・ 遅れやすい生徒のための、中学三年間の最低量の教材。
- ・ わかり易く grading された、中学三年間の学年別最低量の教材。
- ・ 現場における新しい指導法の紹介や外国における英語教育などを含んだ教師向けの weekly または monthly。

4 - 1 - 4) その他

- ・ 教材の精選にあたっての留意点。(2)
- ・ 教科書の題材内容はどのようなめやすで決められているか。
- ・ 都全体では教科書を(ア.中心として イ.準ずる資料を加え ウ.参考程度に)教えているか。
- ・ 学習効果は A 社,B 社,C 社の教科書を使うことによって異ってくるか。
- ・ 教科書の採択はどのような規準によって

伊藤健三他編(大,'76)

[注] 各教科書会社が出している。例えば
Let's Enjoy Reading(東京書籍)

・ Let's Lean English(Reading 用)
(朋友出版)

[注] 「英語教育(大修館)」「現代英語教育(研究社)」。外国のものについては、
吉田一衛「海外外国語教育雑誌紹介」・
(大'75年7月増干)

・ 「題材と表現形式・講座 英語教育工学
第3巻 PP.26 ~ 31」(研究社'72年)

・ 「特集・教材精選の問題点」(現'76・,
7)

・ 「英語科教育の研究」<英語教科書の具備
すべき条件—題材の面から>(大修館,
'75)

[注] 教師の指導法・言語能力によって補う
ことができるが、教科書によってかなり
言語感の養成は違ってくる。

[注] 採択のためのチェックリストを中英研

<p>行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書採択の時に学年別に採択できないのはなぜか。 ・中学生が使用するにふさわしい英和辞典のリスト。 <p>4 - 2 . 音声教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープ教材のカatalog。 ・教科書テープ以外の中学生向けテープについてのリスト。 ・使いやすく効果的な LL 教材。 ・LL で使用する教材の精選の基準。 <p>4 - 3 . 視覚教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英米の風物・習慣・行事などについて,教室で利用できる図版集にはどんなものがあるか。 ・欧米の風物・習慣・歴史・美術などのフィルム・スライド・ビデオのカatalog。 ・教科書別・内容別のスライド・映画・テープ等についての視(聴)覚教材のカatalog。 	<p>で作れば役に立つと思う。</p> <p>〔注〕「現代英語教育」(研究社)の特集「辞書の使い方の指導」('74・10)「辞書の効果的な利用」('75. 4)はリストではないが参考になる。</p> <p>〔注〕各辞書には編集上の特色があり,一概にはいえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語音声教材紹介」:大木忠郎(大. '73. 7 増刊) ・「英語教育年鑑 1975 年度版」<英語視聴覚教材一覧 (開拓社) ・「図詳ガッケンエリア教科事典・第 1 6 巻 英語」(学研, '76) ・「これが新しい世界だ」:国際情報社 <p>(注)20 数冊のうち英米を選択、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図解英和辞典」:Parnewell・清水克祐訳(オックスフォード出版局 1973 年) <p>(注)教室で利用するには小さすぎるが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育年鑑 1975 年度版 PP・203 ~ 229」語学教育研究所編(開拓社) ・「教育機器教材総合目録 昭和 51 年度版」(人間能力開発センター '76)
<p>5 . 教育機器</p> <p>5 - 1 . 音声機器</p> <p>5 - 1 - 1) 音声機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都内 LL 設備校の活用状況(特に二年後半と三年の場合)。 ・都の公私立中学校の LL 教室の普及度と 	<p>〔注〕昭和 51 年の印英研・研究部でまとめたアンケート参照</p>

問題点。(2)

- ・教育工学関係の LL の資料。

5 - 1 - 2) 音声機器を使った授業・その他

- ・LL 教室を使った一年・二年・三年の授業の実態。
- ・LL 教室を使った授業のすすめ方。
- ・LL 授業は週 4 時間では何回,週 3 時間では何回が望ましいか。
- ・LL を使った授業と,使わない授業とでは生徒の英語の力はどのように異なるか。

5 - 2 . 視覚機器

5 - 2 - 1) 映像機器

- ・OHP の都内での使用状況。

5 - 2 - 2) 映像機器を使った授業・その他

- ・OHP 活用の利点。
- ・OHP 利用の授業研究例。

5 - 3 . その他

- ・教育機器を利用した授業がどのように効率をあげているか。数量的データはあるか
- ・音声指導を含めて,学校放送によって効果をあげている例。
- ・視聴覚機器の開発の現状と,将来の見通しはどうか。

- ・「ランゲージ・ラボラトリ」くシリーズ
新しい教育機器 4>:金田正也編
(明治図書, '72 年)

- ・「教授メディアの整備」講座・英語教育工学第 4 巻:金田正也編

- ・「ランゲージ・ラボラトリーの効果」;R.
オレヒョフスキー・乙政潤訳(南雲堂)

- ・「特集 教育機器と私の実践」(現, '75.
11)

- ・「LL 指導の理論と実践」:羽鳥博愛
(桐原書店, '77)

- ・「LL と英語教育」<東書 TM シリーズ>:
浅野 博(東京書籍, '75)

- ・「LL 教育入門」<LL 研究集録 第 3>:
ソニー LL 通信編集部編(ソニー LL システム部, '74)

- ・「教育機器の活かし方シリーズ・窮 2 巻
OHP のすべて」21 世紀教育の会編
(小学館, '71)

- ・「機器利用による学習指導の改善・理論
編・実際編」文部省中学校教育課監修
(大日本図書, '71).

- ・「教育機器の活かし方シリーズ」<全 5
巻>(小学館, '71)

	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育工学を考えるための参考書」:清川英男(大,'75.8) ・「教育機器の活用」(現,'75.8)
<p>6 . 評価</p> <p>6 - 1 . テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化にとんだ問題の作成法を知りたい。 ・Speaking と Writing とでは,筆記テストとの相関はどちらが高いか。実証するデータがほしい。 ・授業内で聞く力・話す力を判断する客観的評価のしかたについて。(2) ・能力差のある生徒を評価する上での問題について。 ・中英研のヒアリング・テストのくわしい結果を知りたい。 ・到達度による評価を行なっている学校の実態を知りたい。 ・外国語教育の 4 技能それぞれの到達目標 	<p>[注] 文法事項の指導(評価編)が近く大修館から出版される予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特集 英語テストの作成と使用」(大,'73.7 増刊) ・「英語の評価と教授」:J.B.キャロル大学英语教育学会編。訳注 PP.13 ~ 23 (大修館) ・「新指導要録と評価の実際・中学校編 pp.188 ~ 199」(教育出版) <p>[注] 文法事項の指導(評価編)が近く大修館から出版される予定</p> <p>[注] 日本英語検定協会の 3 級 4 級のヒアリングテスト参照。</p> <p>[注] 中英研で毎年行一,ている学力テストの中,ヒアリングテスト参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"Modern Language Testing": Rebecca M, Veletce (Harcourt, Brace & World '67) ・"Testing English as a Second Language" :David P Harris ・「英語学力調査一資料と分析」全国英語教育研究団体連合会編(研究社 '71 年) <p>(注) 高校生のテストだが,開き取りテデトがついている</p> <p>[注] 京都府教育委員会に問合せれば何か得られるはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"Modern Language Performance Objectives and Individualization":Vallet,R.M., & D isick R S .

<p>の評価の実態を知りたい。</p> <p>6 - 3 評定</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教科に行なわれている 5 段階評定は適当であるか。 <p>6 - 4 入試</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導要領にない文型・文法事項が私立高入試に出題されている。これにどう対処したらよいか。(4) 高校入試(公・私立)における英語のテスト内容がややむずかしいと思われる。是正の動きはないか。 有名校以外の私立高入試問題集(未出版のもの)はできないか。 英語を高校入試問題から撤廃する活動。 英語・高校入試の功罪について。 	<p>(Harcourt Brace, '72)</p> <ul style="list-style-type: none"> "Handbook on Formative and Summative Evaluation of Student Learning": Bloom et al. (McGraw-Hill, '72) 「中学生に代ってお願い(昭和 50 年度英語高等学校入試問題を調べて)」(大. '75. 7) 「高校と大学の入試の変遷」(大. '71. 12) 「特集入試科目としての英語」(現, '75.2)
<p>7 . 研修</p> <p>7 - 1 . Pre-Service Training</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育実習生指導のための基本的テクニックを知りたい。 <p>7 - 2 . In- Service Training</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語科教員のこれからの再教育の具体的な機会について。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒を生かす教育実習」: 納谷友一 (現, '75. 5) 「教育学都と附属中・高校の連携－英語科における教育実習のあり方をめぐって」(現. '75.5) 「英語教育の再生産」「英語数負養成の課題」(現, '76.4) 「教員養成と英語教師の実態」(大. '71. 12 増刊) <p>[注]・都立教育研究所における研修会 (eg.) 音声実技研修会。中学校英語研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国文化振興会

<ul style="list-style-type: none"> ・現場の英語教師が生きた英語を常に吸収するには、どのような場があるか。 ・英会話グループに参加して練習したい。 ・都所以外で LL テープ作成の資料や指導が受け易いところはどこか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ELEC の講習会 ・ College Women's Association の会等 <p>[注]・ FEN 放送の聴取持続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビの英語講座 ・ レコード・テープなどにもすぐれたものがある。 <p>[注] College Women's Association の会は無料。</p> <p>[注] 英国文化振興会 ブリティッシュ カウンセル図書室</p> <p>[注] LLA 関東支部(明治学院大 418-5212)</p>
<p>8 . 教育環境</p> <p>8 - 1 . 教材・情報センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業での疑問をすぐ聞ける場所があるかどうか。 ・ いろいろな疑問がわいたとき、気楽に電話で質問できる所があればよいと思う。 <p>・ 授業や研修のためのテープ・フィルム・スライド・図書など借用できる場所はどこかにあるか。(3)</p> <p>8 - 2 . 教育課程・授業時数・クラスサイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LL が導入されても準備時間がない。技術家庭・理科・体育のように準備時間の考慮がないのはとういうわけか。 ・ 全国の中学校の英語授業時数一覧表。 ・ 新教育課程にともなう、東京および全国の週授業時数について。 	<p>[注] 各都府県教育研究所や教育センターがこのような要望にこたえる機関になってほしい。現に、電話相談など実施しているところもある。</p> <p>[注] 各公立の図書館、アメリカンカルチャーセンター、ブリティッシュカウンセルの図書館など、会員になれば便利です。'</p>
<p>9 . その他</p>	

9 - 1 . どういう英語を教えるか。

- ・ 中学校の英語教育と人間形成の関係。
- ・ 役に立つ英語を特に研究している学校とその実例。
- ・ 生徒にとってほんとうに必要な英語の学力とはどのようなものか。
- ・ 実用英語と受験英語のバランスについて
- ・ 時事英語について。(2)

9 - 2 . 目標

- ・ 中学では何を目標に英語を指導すればよいのか。

9 - 3 . 小・中・高の関連

- ・ 小学校におけるローマ字教育の実態とその定着度。
- ・ 中学入学時点における生徒の英語に対する知識はどの程度あるか。

- ・ 中学入学時の生徒の日本語の力はどの程度あるか。
- ・ 中学と高校の学習事項に、どの程度の一貫性があるか。

9 - 4 . 外国における言語教育

- ・ 諸外国の義務教育における外国語教育の現状。
- ・ 諸外国の外国語としての英語教育における教育内容と方法と実態。
- ・ 英米の小学校での国語指導の過程、および教科書の編集方針について。

・ 『特集「役に立つ英語」教育を考える』
(大, '75.4)

・ 「職業としてのせんせい」(現. '73.10)

・

「英語教授法事典」<英語教育の目的>
<英語教育批判>(開拓社, '62)

[注] 早期教育が年々さかんになるので、毎年調査する必要があるだろう。アンケート式にするか、実際に「テスト」してみるか、いずれにしても4月最初の授業時間に各学校で実施して、その結果を全都的に集計してみるとよいと思う。

・ 「世界における外国語教育」:星山三郎
(展, N.36 ~ No.48(6回))

・ 「日本の国語教育とイギリスの国語教育」:
中村敬(大. 1977.1)

・ 「米国における外国語教育」:J.W.Childers
織谷馨訳(三省堂)

・ "Linguistics and Reading", Chap.1:C.C.Fries

- ・アメリカに捨ける現代英語の乱れがひどいと聞いているが,その程度・実態について
- ・アジアの国々における英語教育について

- ・中国に捨ける外国語教育の現状について

9 - 5 . 研究計画・名簿・その他

- ・都(中・高)英語科教員名簿
- ・英語教育に関して,何をだれが研究しているか。その資料はどこにあるかなどの一覧表のようなものが欲しい。
- ・全英連をはじめ,各種研究団体の年間計画をまとめた一覧表的な資料が欲しい。
- ・都や区の研究発表などの資料。
- ・以前に都研究員の研究物をまとめて出版したが,その続きは出版されないのか。

9 - 6 . 新学習指導要領

- ・英語の内容の改変と時数問題の情報。(2)
- ・指導要領が改訂されるごとに語や連語が加えられたり,削除されたりするが,その優先順位は何を基準としてなされるか。
- ・中1～3で本当に必要な単語は何か。
- ・新学習指導要領には、言語活動がどの程度可能な言語材料と指導内容がおりこまれているか。

9 - 7 . 国語との関連

- ・生徒は文法の説明を聞いて,どの程度の日本語を理解できるか。

9 - 8 . その他

(Holt, 1962)

- ・「アメリカの小学校の英語教育」:

長谷川潔(大, 1975 . 4月～9月)

- ・ "Regional Meeting of Experts on Teaching of English in Asia": Japan National Commission for UNESCO

- ・「韓国の学制と英語教育」:呉享泰(展, No.55,56)

[注] 都高英研・区中英研で発行している。

[注] 語研漏「英語教育年鑑」(開拓社)や大修館「英藩教育」増刊号に毎年出る研究論文一覧を見るとある程度わかる。

- ・「国語教育と英頭教育の接点」:森住衡

(大, 1977 . 1)

- ・学校の授業で身につけた英語力を実際に試す場をどのようにして作ったらよいか。
- ・選択教科としての英語が受験教科となっていることについてどう考えたらよいか。

追記

これから追加する資料は下のような形になります。

知りたい情報の 分類番号	資料と注
2 - 1	・「新英語教育論<外国語学習と適性・知能>」講座・新しい英語教育（大修館 '76）
3 - 1 - 1)	・「外国語教育の基礎的研究」：島岡丘（開拓社・英語教育年鑑 1976）
3 - 2 - 1) - (4)	・「英語の発音－研究と授業」・鳥居次好、兼子尚道（大修館 '62）
3 - 2 - 1) - (5)	・「英語教授法事典」<辞書>（開拓社 '62）
3 - 2 - 1) - (7)	・「英語教育年鑑'74 年度版」<ダイアログの進め方>：問島豊子 <言語活動について－その理論と実際 ；後田忠勝 <教室内における言語活動>：大石宣子（開拓社， 74） ・「言語活動の考え方・進め方」：納谷友一（大修館'75）
3 - 2 - 1) - (8)	・「英語教授法事典」'The First Six Weeks of English（開拓社，'62）
3 - 2 - 1) - (9)	・「文法・文型の指導」講座英語教授法第 8 巻<関係代名詞の指導> 伊藤健三（研究社 '65） ・「英語教育年鑑,76 年度版」<中学校英語における現在完了時制の指>吹貝賢一（開拓社， '76） (注)ただし日本のものです。
3 - 2 - 1) - (10)	・「英語教授法事典」<発音教授>（開拓社 '62）
3 - 2 - 2) - (4)	・「新英語教育論」 講座・新しい英語教育 1 <英語教育と能力差・個人差>：青木昭六（大修館 '76）
3 - 2 - 3)	・「英語科教育の研究」<学習形態>（大修館，'75）
4 - 1 - 3)	〔注〕TESOL Quarterly・ Language Learning English Language Teaching
5 - 1 - 2)	・「英語教育工学、3」金田正也編（研究社 '72）

	<ul style="list-style-type: none"> ・「LL 効果研究のデザインについて , 3」伊藤聰 (LLA 全国大会発表)
5 - 2 - 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育工学・3」金田正也編 (研究社, '72)
5 - 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後の LL 教育の展望」(LLA 全国大会 '74 パネル)(東京富気大)
5 - 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「LL 教育入門—LL 研究集録・第3集」(ソニー, '74)
6 - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語教授法事典」<考査><Test の型>(開拓社 '62) (注)実例があり参考になる。'
	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語科教育の研究」—<英語教育とテスト (大修館 '75)
6 - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語の測定と評価」D.P ハリス、大友賢二訳 注(ELEC '72)
7 - 1	[注] 教育系国立大に問合せれば何か得られるはず。
7 - 2	[注] 国際教育協議会へ問合せるとよい。(262 - 6668)
9 - 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育の研究」<英米における外国語教育><ヨーロッパ主要国における外国語教育 <ソビエトにおける外国語教育><東南アジアにおける外国語教育>(大修館、75)
9 - 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ Foreign Language Teaching 「米国における外国語教育」 : J.W. Childers 織谷馨訳 (三省堂 '73) ・「英語教授法事典」<海外の英語教育概要 (開拓社 '62)
9 - 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育年鑑」<研究業績一覧> (開拓社 1974,1975,1976) ・「英語教育年鑑'76 年度版」<英語教育研究団体一覧(付)各都道府県英語科担当指導主事一覧 (開拓社 '76)